

<全体分析>

試験時間 60分

<p>解答形式 マーク 18 問(語句選択 3 問 正誤判定 14 問 年代整序 1 問) 記述 22 問 計 40 問</p> <p>分量・難易(前年比較) 分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)</p> <p>大問数 4 題、設問数 40 問は変化なし。正誤判定問題が 2 問、記述問題が 3 問増加した。一方、語句選択問題が 4 問、年代整序問題が 1 問減少した。また、解答となる選択肢を 2 つ選ぶ問題は、昨年度の 5 問から 3 問に減少した。</p> <p>出題の特徴や昨年との変更点 出題は、テーマ通史 1 題、近世 1 題、近代 1 題、現代 1 題である。例年通り、大問Ⅲでは未見史料を素材とする問題が出題された。</p> <p>その他トピックス 大問Ⅱのテーマについては、2024 年度冬期講習「早慶大日本史」第 1 講第 2 問で、同類の内容を「印刷の歴史」として扱った。</p>

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	語句選択 正誤判定 記述	原始～中世における人々と山との結びつき	全体的に平易な問題が多く、ここで取りこぼしをせず得点を確保したい。	易
II	語句選択 正誤判定 年代整序 記述	近世の出版をめぐる諸相	問 1 は、②のオランダが幕府から貿易の許可を受けた年が 1609 年であることは細かい知識だが、これを知らなかったとしても、17 世紀初頭の外交史における主要な出来事である①・③・④が起きた年を分かっていたら、解答はいいに絞れる。	やや易
III	正誤判定 記述	『牧野伸顕日記』にみる近代の政治・外交 《史料》	問 2 は、消去法で対応したい。問 9 は、やや細かい知識が問われているが、早稲田大学志望者であれば正解したい。	やや易
IV	正誤判定 記述	戦後の対日占領政策	問 8 は、選択肢の各文に細かい内容を含むものもあるが、早稲田大学志望者であれば確実にえを正文と判断したい。問 10 は、消去法で対応したい。	やや易

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

<p>入試問題の難度を把握し、差がつきやすい正誤問題や法学部で定番となっている近代に関する未見史料問題への対策を練るためにも、過去問研究を積極的に行いたい。それにより、日頃の学習においてどのようなことを意識する必要があるのかを明確にすることができ、合格に必要な学力を確実に身につけることができる。また、大問Ⅳでは戦後史・時事的事柄の出題が多く、日頃から日本をとりまく国際問題などに関心を持つようにしたい。</p>
--